

## 「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」宮城県医療救護活動従事者研修会を開催しました (2020/1/13)

テーマ：宮城県医療救護活動従事者研修会、RASECC  
場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2020年1月13日（月・祝）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で令和元年度宮城県医療救護活動従事者研修会（主催：宮城県、委託：東北大学病院、実施：コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム）を開催しました。宮城県内の保健医療従事者（医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、放射線技師、事務職員）、行政職員ら46名が受講し、30名のインストラクター・運営スタッフが講師として参加しました。

この研修会では、宮城県の災害医療対策本部、地域災害医療支部のプレーヤーとなるべく、有効な避難所の状況把握、マネジメント方法について宮城県・東北大学・芝浦工業大学が共同開発したRASECC（Rapid Assessment System of Evacuation Center Condition：避難所状況迅速アセスメントシステム）というツールを用いて学習することを目的としています。

現在、災害後に設置される避難所の評価には日本公衆衛生協会・全国保健師長会の「避難所情報日報」などが用いられていますが、紙媒体にまとめられた情報を集約し分析し、翌日以降の活動方針に反映させるためには相当の労力を要します。RASECCでは迅速評価を達成するため評価項目を絞り込み、評価表を撮影・画像伝送することで本部での集約作業を格段に効率化し、分析や情報共有にも役立てることが出来ます。受講者は初めて目にする操作画面に戸惑いながらも、避難所評価表の撮影、伝送、集約作業に協力し合いながら取り組んでいました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな講演、実習を実施しています。佐々木宏之准教授（災害医学研究部門）は、プログラム運営企画委員会委員・実習コーディネーター、講師として運営に携わっています。来年度の履修証明プログラム受講生募集が昨年末より開始され、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」HP（<https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp/curriculum/entry/>）から申し込むことができます（2月14日(金)まで）。



概要を座学で学ぶ



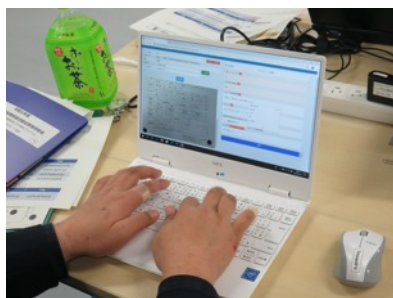
避難所運営ゲーム（HUG）



写真や文字から  
避難所状況进行评估



2人一組で避難所調査の  
ロールプレイング



伝送された評価表を  
フォームに打ち込んでいく



得られた避難所情報から  
資源をどこに配分するか決定